

寒山寺 虎丘・云岩寺塔 西園戒幢津寺 重元寺 北寺塔

蘇州市(そしゅうし)は、中華人民共和国江蘇省東南部に位置する地級市。

古くから絹織物で発展した国家歴史文化名城であり、上海市に隣接する地の利があり、現在も省の経済的中心である。新幹線で30分余り(上海より片道80元)上海への地下鉄の建設中。

古くから中国の先進的な絹織物産地として経済的富裕な町であったが、南宋時代に付近で木綿栽培が広まると綿織物の分野でも屈指の生産を図るようになる。だが、アヘン戦争後の上海開港にともなってその経済的地位をいくらか低下させた。

江蘇省の省都は現在南京に置かれているが、歴史的に清代には江蘇布政使が蘇州に駐在し、太平天国は蘇州を蘇福省の首府とした。南京に都とした、中国国民党時代には蘇州に江蘇都督行署を置き、日本軍占領期にも江蘇省会であった。

シンガポールの協力で建設された蘇州工業園区を始め、蘇州高新技术開発区、昆山经济技术開發区、張家港保稅区などの投資区域を有する。繊維製品、精密化学工業、製紙工業、電子工業、機械工業などの産業があり、2003年の国内生産総額は2802億人民元、一人当たり国内生産は47,700人民元、輸出総額は326億米ドルに達する。経済規模は江蘇省最大で、省都南京をしのご。

蘇州の東北に位置する陽澄湖は、上海蟹の産地・養殖地として著名であり、淡水漁業も盛んである。

寒山寺 500年代初頭に建立された禅宗のお寺です。日本とも長年深い交流があるお寺だそうで、毎年大晦日には多くの日本人観光客がここに除夜の鐘を突きに来るそう。

南朝梁武帝の天監年間(502~519)に創建されたと言われる歴史ある寺院ですが、その創建当初は「寒山寺」という名前ではなく、「妙利普明塔院」、また寺院のすぐ西にある楓橋にちなんでか「楓橋寺」とも呼ばれていたそうです。しかし、何よりこの寺院を有名にしたのは、唐代の詩人だった張継が詠んだ『楓橋夜泊』という一遍の詩。そこには、鐘の音のこともちゃんと歌われている。

聞く所によると、殿内にある釈迦像の背後に「寒山拾得図」という彫刻が配置されているそう。ここには、唐の貞観年間(627~649年)にこの寺院が「寒山寺」と改名される由縁ともなった当時の住職、寒山と拾得の2人の姿も刻まれている。

今日は寺院建築らしくない姿になっている「大雄宝殿」でしたが、左に「羅漢堂」、右に「大悲殿」と三方を囲まれたこの空間には、お香の煙と香りと共に厳粛な空気が流れています。

「弘法堂」この中には弘法大師、鑑真、玄奘三蔵の像がある。弘法大師が立ち寄った寺でもある。



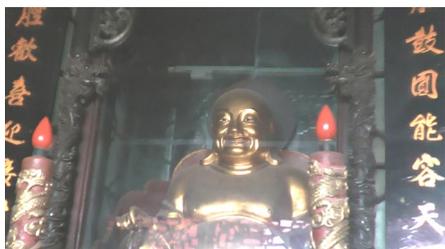
寒山寺山門



寒山寺の石碑



長い参道



天王殿の正面には弥勒菩薩



天王殿の左右には見事な四天王





弥勒菩薩の真裏には韋駄天



天王殿を潜ると右には鐘楼



天王殿を潜ると左には鼓楼



大雄寶殿の山号額



屋根の中心部



屋根の両サイドには鴟尾



大雄寶殿内の右側には古い鐘



左には太鼓



釈迦如来像



左右に十八羅漢



境内には大勢の観光客日本人も居ました



シンボルの普明宝塔



銅製の灯籠



日本より送られたと言われる鐘



清朝愈曲園の作



普明寶塔の山号額



2階は法輪常轉

1階には観音菩薩



市街地 5Km範囲は高い建物は禁止

2階は法輪常轉



遠くには高層マンション



天王殿の前には大勢の観光客



大悲殿



羅漢堂



部屋全体に羅漢達が5百羅漢です



弘法堂



弘法堂正面には三蔵法師



左に弘法大師



右には 鑑真和尚



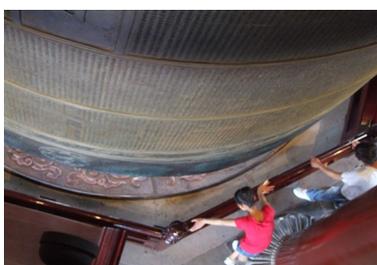
梵音閣



立派な山号額



直径5mの鐘



1403 文字の経が書かれている



釣鐘の下賽銭が



堂の天井



大きな木製の鐘突き先端は皮で巻いている 何度か勢いを付けて突く音は良くない 釣鐘の金具豪快です
吊鐘 5mφ高さ8m 重さ108トン 1403文字

毎年大晦日には多くの日本人観光客がここに除夜の鐘を突きに来る。

虎丘・云岩寺塔 1000年以上の歴史がある傾度2.47度の八角七層「雲岩禪寺」と剣で岩を真っ二つにしたといわれる「試劍岩」、千人の工匠達たちが殺されその血が染み込んでいるため、雨が降ると赤くなるといわれている「千人岩」、剣が沈められているといわれる「剣池」などで有名な蘇州一の観光名所「虎丘景区」。「虎丘景区」内の奥のほうには「雲在茶香」と呼ばれる茶畑、蘇州の名園を感じさせる小規模の庭園「西溪環翠」などの隠れた名所もあります。



塔は登れません、古い塔で一部が崩れていました、大勢の観光客、寺としての建物は見当たりません。



大分古いです 2.47度の傾きは肉眼ではわかりません。

西園戒幢津寺 泰仆寺少卿（官職名）の徐泰時が免官され古里に帰った後、東園と西園を築き、西園の 後ろ側の建築物は仏を祭る寺（現在の**戒幢路津寺**）とし、東園は現在の留園の前身であった。のちに劉恕がそれを拡張し劉園といわれていた。



橋を渡ると広い境内の戒幢津寺



戒幢津寺の石門



戒幢津寺の石碑



大きな鐘楼



鼓楼



天王殿



天王殿の山号額



参道で僧侶に跪き話をしている女性



天王殿にガラスケースに入った布袋様



天王殿のサイドには四天王



布袋様の裏側には韋馱天



天王殿を潜ると大きな大雄寶殿



苏州の寺の鸱尾は皆同じ形体です



大雄寶殿には釈迦如来像



大雄寶殿の両サイドには十八羅漢



大雄寶殿の裏堂には観音曼荼羅



大雄寶殿の奥には観音殿



観音殿には観音様



羅漢堂山号額



羅漢堂入口正面には布袋様



通路には大きな千手観音



正面奥には観音曼荼羅



羅漢堂には沢山の羅漢達がありました

重元寺 2007年11月にフル再建が終わり、蘇州では最大級の寺院です。重元寺の歴史は古く、創建は西暦503年、南梁時代までさかのぼります、現在までに数々の被害（特に文化大革命時）で、破壊されてしまいましたが、園区の陽澄湖畔に場所を移し、新しく再建されました。

特に中心部にある、「大雄宝殿」は高さ36メートル、「奈良の大仏殿」とまではいきませんが、中国では最大級の建物です。中には仏様が3つならんでいて、その姿は雄大です。

そのほか、最も高い水上観音閣があり、楼閣の中には中国最大級の高さ33メートルの観音像がまつられています。

建物は当時の建物を忠実に再現して建てられていますが、全て再建されたものですので、仏像も含め敷地から各建物は全て真新しい限りです。全てが新しいので、古寺の雰囲気としては欠けませんが、綺麗に整備されているため、「お寺」というより「公園」という感覚で行けるとおもいます。

再建造物で、歴史的価値がある場所ではないのと、最近出来たばかりですので、ガイドブックにはほとんど載っていません、新しい観光地として人気が高まっており、旧正月には初詣スポットとして、たくさんの観光客が訪れるようです。

(重元寺は1500年の歴史を持つ有名なお寺で、昨年再建されました。高さ33mの巨大な観音像が安置されているため、何時も観光客で賑わっています。)



水上観音閣の入口石門



とっても長い参道



高さ33mの観音閣



観音閣の石門の両サイドには梵鐘・鼓鐘

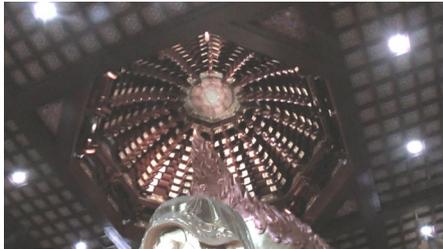
観音大士閣は湖に在ります



33体の大きな観音像

福与かなお顔の観音様

薬壺をお持ちです薬師観音ですね



薬師観音の天上見事です

天王殿

見事な山号額



天王殿の定番で正面には布袋様

天王殿の左右には大きな四天王



天王殿の左右には大きな四天王

布袋様の真後ろには韋馱天様

とても大きな大雄寶殿



見事な大雄寶殿の山号額

見事な重元寺の山号額

大雄寶殿内には大きな三世仏



正面は釈迦如来座像

三世仏の左右には十八羅漢



三世仏の右には鐘



三世仏の左には太鼓



大雄寶殿の裏堂には観音曼荼羅



大雄寶殿の右には大きな鐘楼



見事な山号額



大雄寶殿の左には大きな鼓楼



見事な山号額



大雄寶殿の後ろには大きな文殊殿



文殊殿には文殊菩薩



大雄寶殿の後ろには大きな普賢殿



白象に跨った普賢菩薩



文殊殿・普賢殿の奥には虚空蔵殿



虚空蔵菩薩



虚空蔵殿の反対の右側には地藏殿





地藏菩薩

北寺塔のある報恩寺は、蘇州で最も古い仏寺。

三国時代呉の赤烏年間（西暦 247～250 年）、孫権が母の恩に報いるため、「通玄寺」を築造。

唐の開元年間に、全国各郡に年号と同名の寺を置くことが定められ、通玄寺は開元寺と改名した。

その後唐の同光年間呉越王の錢王が、開元寺の元に、寺を再建し、母の恩ならびに佛恩に報いることを表して報恩寺と名づけた。塔は梁時代（502～557 年）の創建と伝えられ、当時は十一層の宝塔であった。しかしその後たびたび壊され、北宋年間に九層の塔に再建された。現存する塔は、一層から六層までの塔身は南宋時代、七層以上は明代、廂と欄干は清時代に再建、補修されたものである。

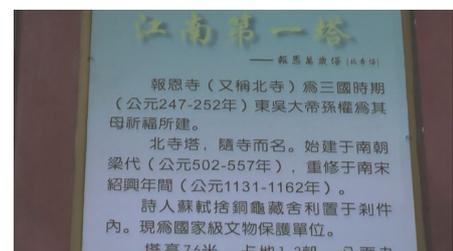
報恩寺塔、通称名北寺塔。八角九階、高さ 76 メートルで蘇州一の高い塔です。かつては蘇州でもっとも高い建築物でもありました。蘇州城の最北端に位置する北寺塔は、虎丘と並んで蘇州のシンボリックな存在です。北寺塔の最上階へ上っていくと、外に出てぐるりと一回りすることができます。南のほうに立つと蘇州の町の様子を楽しむことができますが、天気がよければ蘇州郊外の景色も見ることができます。

北寺塔は、1700 年前の三国時代に呉の孫権が母のために建立。報恩寺塔は「報恩寺」内にありますが、現在一部だけが北塔公園として残っています。中には、「観音殿」があります。楠木造りで明代に建てられたものですが、今日まで当時の様子をそのまま保っています。観音殿の長廊には、漆彫刻「姑蘇繁栄図」が陳列されています。中国最大のもので、全長 32 メートルで高さ 2 メートルです。姑蘇繁栄図は、その名の通り当時の蘇州（姑蘇）の繁栄ぶりを記録しています。北寺塔は、蘇州駅から近いです。

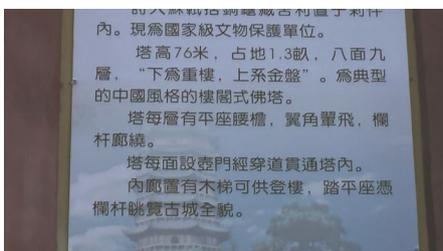


北寺塔八角九階 76 メートル高さ蘇州一の高い塔

入るといきなり大きな石像の布袋様



北寺塔の入り口には大勢の観光客 報恩萬歲寶塔三號額 と説明の看板



1階は観音殿で大きな観音様



2階には白玉佛（余好い顔していません）

塔の最上階

塔から見た蘇州市街地



恩寺の全景

七佛寶殿と三号額



ご本尊の七佛

七佛の右サイドには吊り鐘



七佛の左サイドには太鼓

ご本尊の七佛殿の周りを、お経を唱えながら歩いています



裏堂には七佛曼荼羅